

## 大学の世界展開力強化事業（平成 30 年度採択） 中間評価結果

大 学 名	関西大学
整理番号	AB01
事 業 名 (交流推進プログラム部分)	グローバル・キャリアマインドを培う COIL Plus プログラム

### 大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価  <span style="font-size: 2em; font-weight: bold;">A</span>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
コメント	<p>本プログラムは、関西大学と米国の大学等との間で COIL 型教育を活用しつつ、積極的派遣・受入を伴う学生交流を伴う教育プログラムの交流推進と、当該年度の採択大学をはじめ、日本国内の大学等に取り組の実施によって蓄積された知見や経験等を基に COIL 型教育を活用した大学間交流を推進すること、米国側のプラットフォームを担う米国教育協議会との連携協力を推進するプラットフォーム構築という 2 つの要素を実施しているプログラムである。</p> <p>学生の交流推進では、COIL 型教育によりグローバルな社会で活躍することのできる、グローバル・キャリアマインドを備えた学生を日米双方で育成しようとする取組は、海外相手大学とのネットワークを活用し、言語・異文化理解重点型から専門性重点型まで、焦点の異なるプログラムをそれぞれ実施しており、多様な学生を対象とした人材育成を目指している点が評価できる。また、COIL 授業の科目数やその受講者数は順調な推移を示している。</p> <p>一方で、交流学生数は特に日本人学生の派遣数が中間評価実施時点までの目標を相当下回っている。オンラインをさらに活用し、渡航を伴わなくとも人材育成が可能となるプログラムの構築等、代替案が検討されていることから、創造的な解決策を構築し、多彩な交流活動を実施していくことが望まれる。さらに、科目開設や連携構築面ではプログラムの進展が認められるが、海外相手大学との成績評価手法の共有などについて議論を深め、提供する教育内容の質の保証に一層注力することが望まれる。</p> <p>プラットフォーム構築においては、JPN-COIL 協議会と Institute for Innovative Global Education (IIGE) を設置して、COIL 型教育の認知度向上を目的として数多くの国内外のセミナーを活用し広報活動や情報発信を行っている。採択大学以外も含む国内大学を先導し、かつ米国以外の第三国への波及も視野に入れ、COIL 型教育を牽引しようとしている点が評価できる。国内の採択大学において、COIL 型事業の展開が限定的に実施されることがないように、日本の COIL 型教育を先導し、今後の COIL 型教育の発展に資する役割を果たすべく、引き続きプログラム運営を推進していくことが求められる。</p> <p>最後に、今後も本プログラム終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進とともに、将来の我が国と相手国の大学間交流の更なる促進と発展に向け、プラットフォーム構築事務局として引き続き積極的なプログラム展開に取り組まれることを期待する。</p>